

石油化学工業協会 IoTワーキンググループ活動報告

2016年5月24日
石化協 IoT-WG

ワーキンググループ活動目的



IT利活用によるビジネスモデル変革についての調査・研究を目的として、石化協のワーキンググループの1つとして、IoTワーキンググループを2015年度より発足させた。

■発足の背景

- ・ ビッグデータの活用やIoT (Internet of Things:モノのインターネット)の進展が世界的に各産業に浸透し、新たなビジネスモデルを輩出している。
- ・ 米国ではGEが中心となり、産業機器のインターネット化、データ解析による高度な意思決定を可能とするIndustrial Internetを提唱している。
- ・ 一方ドイツでは、開発・製造・流通プロセスをIoTにより全体最適化するIndustrie 4.0 (1.0:蒸気機関、2.0:電力化、3.0:オートメーションに次ぐ第4次産業革命)を、産官学の国を挙げて強力に進めている。
- ・ これらは産業システムのグローバル標準化策定に影響を与え、製造業においてもプラットフォームの獲得競争が始まっており、日本は標準化に取り残されかねない。
- ・ わが国ではこうしたIT利活用の重要性や各国の取り組みに関する認識が欠如しているが、世界の動向についての情報を収集し、日本の石化業界への影響を研究し、また化学産業全体にも関わる問題なので、所管省庁や関係団体にも働きかけていくこととしている。

ワーキンググループ活動内容



・ ワーキンググループの実施概要サマリ

実施日付	2015年 7月23日	2015年 9月18日	2015年 11月17日	2016年 2月22日	2016年 4月14日
演題	IoT時代に対応したデータ経営2.0の促進～CPSによるデータ駆動型社会の到来を見据えた変革～	製造業の将来 – 何が語られているのか? –	「デジタル＝ITとIoT」が引き起こす“第4次産業革命”にどう先んじるか	横河が描く Industrial IoT リファレンスモデルと、お客様への取り組み紹介	IoTソリューションのご紹介
ご講演者	経済産業省	シンクタンク	ITベンダー	横河ソリューションサービス株式会社	ITベンダー
概要	IT活用について、諸外国の動向も踏まえて、日本でも何かをやらなければならないと考えている好機で、日本が世界をリードできる可能性もある。	サプライチェーンや消費者との関係が、オフィスと消費者のつながり、オフィスと工場のつながりに限らず、工場と消費者とのつながりまで拡大し、物流まで広がっている。	第4次産業革命は第3次の延長上ではなく、新たな競争軸。 デジタル(IT・IoT)により、製造業と非製造業の境目がなくなり全産業に影響が及ぶ。	横河さんが描く Industrial IoT リファレンスモデルと、お客様への取り組み紹介。11月頃からバーチャルなIIoT(Industrial IoT)推進室を設けて活動している。	クラウドを活用したCyber-Physical-Systemsと様々なマーケットでのIoTイニシアチブ利用事例

ワーキンググループ活動内容



IoTワーキンググループでは、経産省、シンクタンク、ITベンダーから幅広く情報収集、ヒアリングを実施してきました。

その中で、横河ソリューションサービス様のご講演について、ワーキンググループから皆さんにも幅広くご紹介したいと思い、本日お招きしております。

横河ソリューションサービス株式会社

ソリューションビジネス本部

ビジネスマーケティング部

部長 金澤 明 様

よりご説明いただきます。